

教科に関する調査の設問別の分析結果

「基礎・基本」定着状況調査 中学校英語 6 1

- 6 次の1～4の会話文の()にあてはまる最も適切な英語を、それぞれ下のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

1 A: What () Akiko and Ken do on Sunday?
B: They play basketball.

(注)Akiko アキコ(人名)
Ken ケン(人名)

ア is イ are ウ do エ does

【出題の趣旨】

適切な語を用いて会話文を組み立てることができかどうかをみる。

【学習指導要領の内容・領域】

「読むこと」(ウ)

物語や説明文、会話などのあらすじや大切な部分を読み取ること。

(大まかな流れをつかみながら読み取ったり、中心となる事柄など大切な部分をとらえて的確に読み取ること)

	正答率
本校	15.2%
広島県	21.3%

解答類型	1	2	3	4	5	6	7	左記以外	無解答
本校の割合 (%)	15.2	30.4	39.1	15.2	/	/	/	/	0.0

この問題を解くために必要な力

- ・何を問われているのかを応答文から読みとる力
- ・be 動詞、一般動詞の用法の理解
- ・主語により、do, does を使い分けの理解

誤答分析

解答類型2について

- ・疑問文の中の do が動詞として使われ、()には be 動詞ではなく助動詞を補うのだということが理解できていない。
- ・主語は Akiko and Ken で、三人称複数であることが判断できていない。

解答類型3について

- ・疑問文の中の do が動詞として使われ、()には be 動詞ではなく助動詞を補うのだということが理解できていない。

解答類型4について

- ・助動詞を補えばよいという理解はできているが、主語が Akiko and Ken (三人称複数)であることが理解できていない。

以上のことから誤答の原因として、主語は何であるか、主語による do / does の使い分け、一般動詞 / be 動詞のどちらを使う文であるか、が十分理解できていないことが考えられる。また、文頭に疑問詞が置かれていることでその判断がより困難であったと考えられる。

調査結果の分析をふまえた指導改善のポイント

「基礎・基本」定着状況調査 中学校英語 61

【单元名】 Unit 5 A Park or a Parking Area? (第2学年)

調査結果からみる課題

【課題となる力】

- ・ be 動詞，一般動詞を正しく使い分けることができる力
- ・ 対話の文脈を考えて，適切な順序で文を書くことができる力

【指導上の課題】

- ・ be 動詞，一般動詞のそれぞれの用法を確実に定着させていない。
- ・ スキットづくりやスピーチなどで，自分の考えをまとまりのある文章で表現する指導が不十分である。

指導改善のポイント

be 動詞と一般動詞に注目して，正しく文を組み立て，対話を成立させる。

【指導の工夫】

絵を活用し，be 動詞と一般動詞を含む対話文を作らせる。

各個人で自分の考えを書かせる。その後ペアになって，まとまりのある対話文を完成させる。

絵を活用し，be 動詞と一般動詞を含む対話文を作らせる。

- ・ この単元で学習した「接続詞(that)」を使って文章を作らせる。
- ・ 英語が苦手な生徒に配慮し，例文を提示する。その例文を参考にしながら個人思考させる。
- ・ 作った文をもとに，まとまりのある対話文を作らせる。

個人思考から集団思考に変えて，ペアになってまとまりのある対話文を完成させる。

- ・ 毎回の授業のウォーミングアップとして“Let's talk with your pair!”で取り組み，ペアで教え合いながら疑問文や応答のパターンを定着させる。
- ・ 個々が考えた英文を参考にしながら，まとまりのある対話文を作らせる。

中学校第2学年 英語科学習指導案

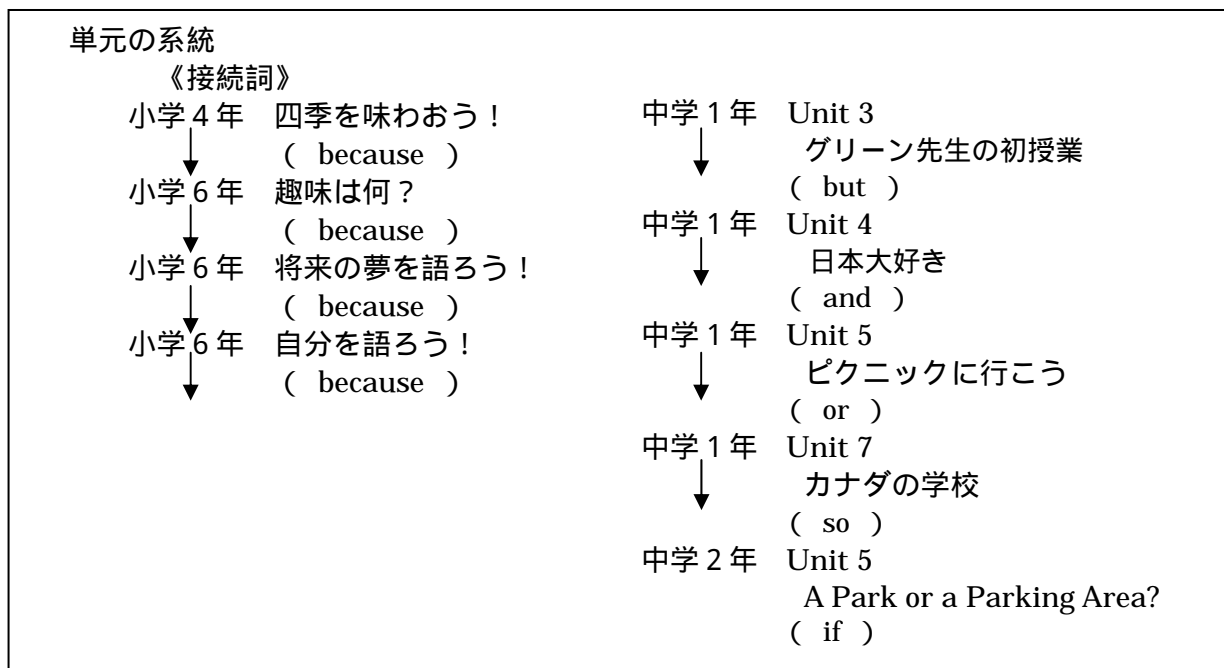
単元名：Unit 5 A Park or a Parking Area?

平成21年11月9日(月)5校時(13:50~14:40)
場所：3階 2年2組教室

単元について

本単元は、ある事故をきっかけに「公園を維持するか、駐輪場にするか」という議論が起こるとい設定である。身近な「地域の問題」を扱いながら、「事実を伝える」「意見を述べる」という言語活動が可能である。新聞記事や投稿の意見を読んで内容を理解し、また、それを参考にして、5W1Hの明確で簡単な記事を書くことができたり、簡単に自分の意見を述べるができたりする内容である。

また、新出の文法事項としては、接続詞 if, that, when, because をまとめて順番に扱えるようになっている。事実を伝えたり、自分の気持ちや考えを述べたりするのにふさわしい表現である。また、普段の生活の中でよく使う表現の中にも使われていて、コミュニケーションの幅を広げることができる。今後の学習の中で、より本格的な「議論」を扱う際に活用できる表現でもある。



調査結果からみる課題

【課題となる力】

- ・ be 動詞，一般動詞を正しく使い分けることができる力
- ・ 対話の文脈を考えて，適切な順序で文を書くことができる力

【指導上の課題】

- ・ be 動詞，一般動詞のそれぞれの用法を確実に定着させていない。
- ・ スキットづくりやスピーチなどで，自分の考えをまとまりのある文章で表現する指導が不十分である。

指導改善のポイント

(1) 指導内容・指導方法について

be 動詞と一般動詞に注目して、正しく文を組み立てることを指導のポイントとし、そのため以下の指導を行う。

絵を活用し、be 動詞と一般動詞を含む対話文を作らせる。

- ・この単元で学習した「接続詞(that)」を使って文章を作らせる。
- ・英語が苦手な生徒に配慮し、例文を提示する。その例文を参考にしながら個人思考させる。
- ・作った文をもとに、まとまりのある対話文を作らせる。

個人思考から集団思考に変えて、ペアになってまとまりのある対話文を完成させる。

- ・毎回の授業のウォーミングアップとして“Let's talk with your pair!”で取り組み、ペアで教え合いながら疑問文や応答のパターンを定着させる。
- ・個々が考えた英文を参考にしながら、まとまりのある対話文を作らせる。

(2) 「ことばの教育」との関連

「言語技術」を活用した指導を通して、生徒につけたい力は次の通りである。

- 与えられた単語から、文の意味を考えて正しい語順で文を作る場面
 ・・・・ 主語を明らかにして書く力

単元の目標

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
・ペアワークやグループワークにおいて必要に応じて協力し合っている。 ・新しく学んだ表現を用いて、意欲的に記事を書くようとしている。	・接続詞 if を用いて自分のことなどを書くことができる。 ・接続詞 that を用いて自分の考えを書いたり、対話文を作ったりすることができる。 ・接続詞 when を用いて自分のことなどを話したり、書いたりすることができる。 ・接続詞 because を用いて自分のことなどを書くことができる。	・本文の内容を正しく読みとることができる。	・if 節を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・that 節を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・when 節を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・because 節を用いた文の形・意味・用法を理解している。

指導と評価の計画

(全9時間)

次	学習内容(時数)	評 価					
		関	表	理	知		
1	・if節を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・接続詞ifを用いて自分のことを表現できるようになる。(1)					・if節を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・接続詞ifを用いて自分のことなどを書くことができる。	ワークシート 小テスト 活動の観察
2	・本文を読んで内容を理解する。(1)					・本文の内容を正しく読みとることができる。	ノート
3	・that節を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・本文を読んで内容を理解する。(1)					・that節を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・本文の内容を正しく読みとることができる。	ワークシート 小テスト ノート
4	・接続詞thatを用いて対話ができたり,書いたりできるようになる。 【本時1/1】					・接続詞thatを用いて自分の考えを書いたり,対話文を作ったりすることができる。 ・ペアワークにおいて必要に応じて協力し合っている。	ワークシート 活動の観察
5	・when節を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・接続詞whenを用いて自分のことを表現できるようになる。(1)					・when節を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・接続詞whenを用いて自分のことなどを話したり,書いたりすることができる。	ワークシート 小テスト 活動の観察
6	・本文を読んで内容を理解する。(1)					・本文の内容を正しく読みとることができる。	ノート
7	・because節を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・接続詞becauseを用いて自分のことを表現できるようになる。(1)					・because節を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・接続詞becauseを用いて自分のことなどを書くことができる。	ワークシート 小テスト 活動の観察
8	・本文を読んで内容を理解する。(1)					・本文の内容を正しく読みとることができる。	ノート
9	・新聞記事を参考にして5W1Hの明確な,簡単な記事を書くことができる。(1)					・取材メモを使って,5W1Hの順になるように記事を書くことができる。 ・新しく学んだ表現を用いて,意欲的に記事を書こうとしている。	ノート

本時の学習

(1) 本時の目標

接続詞 that を用いて自分の考えを書いたり，対話文を作ったりすることができる。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
1 ウォームアップを行う。			
あいさつ Let's talk with your pair! ペアで既習の英文を音読練習する。 単語発音練習 Unit 5 の新出単語をリズムに乗せて発音練習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・元気よく声を出させて，英語学習へ向かう気持ちを高める。 * 英文を読むのが難しい生徒のペアを支援する。 ・文字を見てしっかり発音できるようにする。 		
2 本時の目標を確認する。			
ペアになって，接続詞 that を使って対話文を作ろう			
接続詞 that の復習をする。 ・ I think (that)~ I don't think (that)~ We hope (that)~ She knows (that)~	<ul style="list-style-type: none"> ・ that は省略されることが多いことを確認しておく。 	接続詞 that のポイントを押さえる	教
3 個人思考する			
ワークシートの絵を見て，自分の思っていることを接続詞 that を使って5文以上書く。	<ul style="list-style-type: none"> * 机間指導で個別支援する。 	英文をしっかり考えさせる	考
4 ペアで思考する			
ペアになって，それぞれが考えた英文を出し合い，それをもとにして，相手の考えをたずねたり，自分の意見を伝えたりする対話文を作る。 ・ 一例を挙げて，やり方を示す。 いくつかの対話文を聞く。 ・ 対話の工夫が活きている。 ・ 比較的長い対話文になっている。 ・ 辞書で調べた単語を使って対話文を作っている。 ・ 面白い内容の対話になっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペアで話し合いが進んでいないところには援助する。 ・ わからない単語は「和英辞典」を使って調べさせる。 <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> ことばの力活用ポイント 接続詞 that を使った文を書かせる </div>	ペアで協力し合っている。 接続詞 that を使って，工夫しながら対話文を作ることができる。	活動の観察 ワークシート
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> 工夫して対話文を作らせる </div>			
5 今日の学習を振り返る			
本時の振り返り ・ ワークシートを集める。 宿題の確認と次時の確認をする あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価表に記入させる。 		

検 証

検証の方法

「基礎・基本」定着状況調査の問題を授業の中で実施した。

- 6 次の1～4の会話文の()にあてはまる最も適切な英語を、それぞれ下のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

1 A: What () Akiko and Ken do on Sunday?

B: They play basketball.

(注)Akiko アキコ(人名) Ken ケン(人名)

ア is イ are ウ do エ does

検証結果

「基礎・基本」定着状況調査 平均通過率 15.2% 無回答率 0%

検証授業後 平均通過率 33.3% 無回答率 0%

正答	ウ do	
誤答例	ア is	17.9%
	イ are	33.3%
	エ does	15.4%

分析・考察

正答率は18.1%上昇した。

誤答例から分析して、主語はAkiko and Kenで、三人称複数であることを理解できている生徒が66%以上いることがわかった。

疑問文の中のdoが動詞として使われ、()にはbe動詞ではなく助動詞を補うのだということが理解できていない。

一般動詞とbe動詞の使い分けをするために、既習文型を使って口頭練習をしたり、ワークシートに書いたりすることで、正答率が向上したと考えられる。

英文の主語が何であるか、動詞は一般動詞かbe動詞のどちらを使っているのかを理解させるために、今後の基本文導入の中で動詞の復習を取り入れ、継続して指導する必要がある。